

平成24年度和歌山県文化功労賞

こ と きよ の 古都 清乃 (本名：近藤陽子)

住 所 東京都港区
出身地 群馬県太田市
生年月日 昭和22年2月27日

◎ 業績及び経歴

昭和22年群馬県太田市に生まれる。昭和40年に、吉田正門下生として、ビクターレコード（現ビクターエンタテインメント）から「初恋笠」でデビューする。

昭和43年に和歌山を題材にした「和歌山ブルース」「串本育ち」をリリース。ぶらくり丁などの県内の地名を歌詞に取り入れた「和歌山ブルース」と、串本節を歌い込んだ「串本育ち」は、ご当地ソングのさきがけとなり、特に「和歌山ブルース」は昭和54年頃から、近畿、中国、九州地方を中心に有線リクエストやレコード売り上げが増え、現在に至るまで根強いロングセラーとなっている。

最近では、平成22年に歌手生活45周年記念曲として、有吉佐和子氏の小説「華岡青洲の妻」をモチーフにした「加恵～華岡青洲の妻～」を発表し、同名の舞台でも主役の加恵を演じた。平成24年に「おんなの命」、平成25年2月には新曲「まよい船」をリリースと、歌手生活50周年を控え、精力的に活動中である。

このほかにも、根来の子守唄、和歌山慕情、紀ノ川の女、岩出音頭、紀州白浜音頭、椿音頭、熊野古道なかへち音頭等、和歌山の各地にゆかりある歌を数多く歌い、また地元スーパーマーケットのCMソングでも親しまれている氏は、和歌山芸能県人会の名誉会員に認定され、平成16年5月には、和歌山市ぶらくり丁に「和歌山ブルース」の歌碑が建立される等、県外出身・県外在住ながら、広く県民に愛されている。

長きにわたり、歌謡曲を歌い続け、その活動を通して、和歌山県の魅力を県内外に広報することに貢献してきた功績は誠に大である。歌以外でも長年に渡る福祉活動や警視庁管内での激励活動など、多岐にわたる分野にも力を注いでいる。



■ 現 在 歌手

◆ 主な表彰歴等

- 平成7年 第28回日本有線大賞「有線音楽賞」
- 平成20年 和歌山市観光協会「和歌山市観光発信人」就任